



冷蔵庫の
前に立つ

川崎ゆきお

長く生きてきた老人が物忘れしやすいのは、回線が重くなったからだけではなく、色々とデータ数が多いためかもしれない。

作田は年寄りと言うほどではないが、最近物忘れが多くなった。キッチンに行き、冷蔵庫の前で動かなくなることが多い。何かを取りに来たのだが、忘れたのだ。ただ、用は冷蔵庫の中にあることは分かっている。

ここで、ストーリーを作田は考える。そこへ立つまで何をしてきたか。前後関係、文脈から探る。

しかし冷蔵庫を開け、中をいくら覗いても、思い出せないで、元いた場所に戻る。

そこはいつもの居間で、テーブルの上にパソコン、その向こう側にテレビがある。パソコンを見ているか、テレビを見ているか、どちらかだ。

これが食事中なら、思い出しやすいだろう。何か足りないものがあつたはずで、それで席を立ったのだ。マヨネーズかもしれないし、醤油やコショウかもしれない。味が水臭いので、何かを付けようと取りに行った……とか。

キッチンへ行く用事はそれぐらい。そして、冷蔵庫の前に立ったのだから、用は冷蔵庫の中にある。かなり絞られる。

今回はパソコンとテレビを見ていて立ち上がったのだから。このときのパターンを作田は思い出してみた。

先ず一番多いのは冷蔵庫の中から缶コーヒーを取りに行くこと。しかし、缶コーヒーはまだテーブルの上に残っている。これが用ではない。すると、別の用だ。

では、何を思い付いて、キッチンへ向かったのだろう。

作田は過去のパターンから推測した。それは、いずれにしても、こういう場合は、大した用事ではない。

冷蔵庫に用があることは分かっている。だが、それはもの凄く重大な用件ではないのだ。

食事中ではない時間帯で、冷蔵庫の中が気になることとは何か。

やはり飲み物だろう。またはおやつだ。買っていたおやつが冷蔵庫の中に入れており、それを思い出し、食べたくなり、取りに行った。しかし、そういうおやつの買い置きは最近ない。

しかし、飲み物にしる、おやつにしる、そこに思い至っただけで、すぐに思い出せるはず。だから、用件はそれではない。もっと別の切り口から来た何かだ。

最前までやっていたテレビ番組で思い出したのだろうか。見ていたのは古いテレビ時代劇。しっかりと見ていたわけではなく、パソコンで写真を整理していた。

それらを見て、思い付いた可能性もあるが、これも糸が繋がらない。

そうなると、急に頭の中に湧き出した何かだろう。

さすがに、作田はそこまで追い込んだので、思い出せた。

シューマイだった。

これはおやつのジャンルだが、実は夕食のおかず用だ。時間は夕方近い。夕食に何を食べようかと、ふと頭に浮かんだ。そして、何があるかを考えながら、確認のため、キッチンへと行ったのだ。

夕食のおかずは冷蔵庫だけに保存しているとは限らないが、とりあえず冷蔵庫を開けた。そして、そこで何をしに来たのかを忘れてしまった。フリーズしたのだ。凍結だ。

この凍結と冷凍室が繋がれば、話は早かった。

そして、再び冷蔵庫へ向かい、冷凍室を開けると、冷凍海老シュウマイがあった。これが用だった。この確認だ。買ったのは一ヶ月ほど前。そのため、記憶もおぼろげで、遠かった。

その期間、色々と冷蔵庫や冷凍室におかずを入れている。だから、一ヶ月ほど前のものなど遠い記憶だ。それを先ほど思い出したのは奇跡のようなもの。忘れていても仕方がないこと。それを思い出したのだから、かなり記憶力が良いことになる。

冷凍海老シュウマイに用があった。それで解決した。

今回は解決したが、今まで未解決のまま終わっている用もある。冷蔵庫の前に立つまでは同じで、そのまま迷宮入りになっている。ただ、今思い出しても、もう遅いだろう。きっと食べてしまったのだから。

了